大羽イワシ流網漁業試験

担当者 漁業課長 田名部 政 春
瑞鷗丸船長 梶 浦 喜 助

I 目 的

春季日本海を北上来游する大羽イワシは、昭和35年より本県西海岸への来游が全く絶えているが、沿岸漁民の依存度の高い漁業であるので、引続き継続事業として取上げ、来游の有無等調査するものである。

II 調査方法

1. 試 験 船 瑞鷗丸 3042 吨 H90HP
2. 乗 組 員 船長以下9名
3. 調 査 期 間 昭和38年5月3日～5月20日
4. 調 査 海 域 県境大間越沖～鯨ヶ沢沖
5. 漁 具 大羽イワシ流網15反

III 調査経過

本年度は4月10日まで底曳漁業試験を実施し、その後底曳網漁具の整理、及び大羽イワシ流網の準備を行い、5月4日黒崎W3.5湊において本年度第1回目の試験操業を行なった。5月20日まで3回に亘って試験操業を行なったが、前年同様全く不振に終わった。

IV 調査結果

瑞鷗丸は4月17日～20日まで北部日本海々域における春季大羽イワシ漁況予察のための海洋観測を実施し、漁況予報を発表すると共に引き続き漁業試験を行ったが、殆んど魚探反応が見られず、5月12日艦作崎SW7.5湊でサバ90尾、中羽イワシ9尾、イカ10尾5月16日艦作崎WSW7湊で小サバ12尾、イカ4尾、ハタハタ2尾を漁獲しただけで全くみるべき漁がなかったなおサンマ流網漁業試験終了後の7月21日及び24日にも権現沖、鯨ヶ沢沖で漁具10反を投網し、中層(タル網50m)の試験を実施したが、これもみるべき漁がなかった。

月 日		5月4日	5月12日	5月16日	
漁場	位置	黒崎W 3.5 湍	船作崎S W 7.5 湍	船作崎W S W 7 湍	
観 測 時		1 7. 2 0	1 7. 2 0	1 8. 0 0	
気 象	天 候・雲 量	C	C	b	
	風 向・風 力	S 1 ~ 2	E 1	NE 1	
	気 圧	1 0 1 9	1 0 2 1	1 0 0 7	
	気 温	1 4. 5	1 5. 5	2 0	
海	水	0 m	1 2. 4	1 2. 9	1 3. 4
		1 0 m	1 0. 8 5	1 0. 8 0	1 2. 7 0
		2 5 m	1 0. 1 0	1 0. 3 0	1 1. 2 0
	温	5 0 m	8. 6 0	8. 6 5	9. 0
		7 5 m		8. 5 5	8. 9
況	水 深	7 3	9 5 0	1 2 0 0	
	潮 流 速 度	S E 1 / 4	N E 1 / 4	N E 1 / 4	
魚 群	種 類				
	濃 淡				
漁 具	投 網 時	1 7. 0 0	1 7. 2 0	1 7. 4 5	
	揚 網 時	2 0. 3 0	2 1. 3 0	2 2. 0 0	
	使 用 反 数	1 5 反	1 5 反	1 5 反	
漁 獲	体 重 数 量	皆 無	イカ 10 尾 サバ 90 尾 中羽 9 尾	小サバ 12 尾 イカ 4 尾 ハタハタ 2 尾	
備 考					